

いちばん近くで、動く、働く。

公明党
川崎市議団

多様な就労変化に対応せよ!!

原発事故による節電の取り組みとして、企業が土日の休日を平日にシフトする動きや就労時間をサマータイム制にするなどの動きが広がっています。このような多様な働きかたへの対応として保育所の預かり時間の延長や休日預かりの拡大を求めました。

こども本部長は「市民の多様な就労に対応するため、各区1箇所の休日預かり事業の拡大を図り対応する」と述べ、このたびの市民の就労の変化に対応することが明らかになりました。



休日保育を行っているすみれ保育園



立体交差化が待たれる塚越踏切

南武線立体交差化へ一歩前進!!

南武線連続立体交差化の早期事業化を求めました。このため総合交通計画への反映や、事業化に向けた年度ごとの取り組みを明らかにするよう質しました。

建設緑政局長は「本市と横浜市が両市の新たな交通体系の整合性を図ることを目的に、6月6日、調査・検討に相互協力する覚書を交換した」ことを示し、今後は「事業費や構造形式による沿線への影響を検討するため、今年度、電気・通信関係の検討を行い、架線高架工法の検討を完了する。並行して、工法の異なる高架形式や地下形式も検討する」と答弁しました。

認可外保育園への助成拡大を!!

待機児童は昨年より減少したものの、いまだ今年度は851人となっています。認可外保育園など既存施設の有効活用を図り、待機児童解消に役立てるべきと訴えました。市内の同施設は「認可外保育施設指導監督基準」により、毎年立ち入り検査を受けています。また認可外保育園には、まだ1000人を超える児童の受け入れが可能です。

こども本部長の「新たな計画を策定する中で、認可外保育園の再構築を行う」との答弁に対し、保護者負担の公平性の観点からも認可外保育園に対する助成拡大を求めました。



お知らせ

庁舎内すべてLED化へ

市役所内にある4,500個の白熱電球がすべてLED化されることが決定。これは、公明党が代表質問の中で、消費電力が少なく寿命が長いLEDへ変えるべきと主張したことへの答弁で明らかになりました。

公明党は、さらに、人がいるときだけ点灯する人感センサー付き照明の導入も提案しています。省エネ対策をしっかりと進めてまいります!

救急車現場待機時間改善へ!!

「川崎スタンダード」の効果が現われています。救急車が現場に30分以上滞在する割合が17%から導入後13%へと4ポイント改善され、救急隊が医療機関から3分以内に回答を得られるケースも56%から88%と大きく改善しました。

今後は一般病床の療養病床への転換や重症患者を24時間体制で受け入れられる救急拠点病院の整備を推進します。

エリアメール運用開始

川崎市では、災害時の市民への情報伝達について、7月27日から緊急速報「エリアメール」を導入しました。

国が発表する情報をはじめ、電力需要ピーク時などにも活用し、市民に抑制のお知らせなどを含め、緊急性の高い情報を災害発生時に通信規制を受けずに一斉に携帯電話に配信が可能となります。